

## 『うちの猫』はワンと鳴く



皆さんに『うちの猫』について紹介したいと思います。今から8年前にペットショップで一目惚れした子を猫を連れて帰り、初めて猫を飼うこ

とになりました。生後2カ月、体重は700g、小さな家族が増えました。以前、猫というのはいまより人間に関心が無く距離を置く動物だという印象があったのですが、その考えは180度変わりました。とても感情豊かで、人懐っこいのです。『うちの猫』は人の心を読むのが得意で、「そろそろごはんをあげようかな」と思い、目を合わせると、なんと『ワンワンワン』と短く鳴きます。なぜか目が合った時だけです。ただ、やはり猫なので『ニャン』と『ワン』の間の発音なのですが、私には『ワン』と聞こえます。性格も鳴き方も犬に近く、とても甘えん坊で、帰宅時のお出迎えはもちろんのこと、おもちゃと一緒に遊ぶのも大好きです。

今はもう8歳。まだまだ若いとはいえ、時々嘔吐をするようになり、一度に多くのごはんをあげられなくなりました。調子が悪い時はごはんを食べなくなった時もありましたが、少量ずつあげるようにして調子を取り戻し、また『ワンワンワン』とよく鳴くようになりました。あまりにもワンワン鳴き続けるので、少し面倒だなあと感じてしまうこともあるのですが、うれしい悲鳴です。皆さんの中には、猫はツンデレな動物だと思われている方も多いと思いますが、こんな『うちの猫』も一応猫です。

作業療法士 酒井 克樹

### 特集

## 自宅で出来るリハビリテーション 第二回

### 認知リハビリ編 「頭の健康体操～学習プログラム～」について

最近、物忘れが多い、人の名前や漢字が思い出せない、言いたいことが言葉に出せないなどと思うことがありますか？机上で行える頭の体操をご紹介します。

#### <学習プログラムとは>

音読や計算などを中心とする教材を用いた学習を学習者と支援者が、コミュニケーションを取りながら行います。一人ひとりに合わせた課題を行うことが大切です。学習プログラムの目的は、学力を高めることではなく、読み書きや易しい計算を学習することで、学習者の認知機能やコミュニケーション機能、身辺自立機能などの前頭前野機能の維持・改善を図るものです。

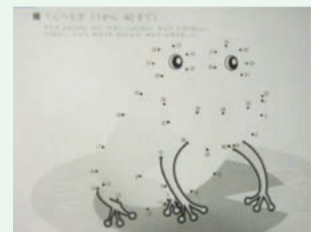
#### <大脳の前頭前野の働き>

- ① 考える
- ② 行動抑制する
- ③ コミュニケーション（対話）する
- ④ 意思決定する
- ⑤ 情動（感情）を抑制する
- ⑥ 記憶をコントロールする
- ⑦ 意識・注意を集中する
- ⑧ 注意を分散する
- ⑨ やる気を出す



#### <課題の種類>

- ・ 計算
- ・ 音読
- ・ 書写
- ・ 漢字の書き取り
- ・ 語想起
- ・ クロスワードパズル
- ・ 単語の記憶
- 例：5つの言葉を音読しながら数回書いて記憶し、その後記憶した言葉を想起して書く。
- ・ 点線結びパズル
- 例：1～40までの数字を探して線で結び、図案を作る。
- ・ 間違い探し
- 2つの図案を比べて、違うところを探す。



点線結びパズル



間違い探し

引用文献：『学習療法の秘密』—— 監修 川島隆太 くもん出版  
『まちがい絵さがしYOU』—— 英和出版社  
[www.happylilacnet/ten-kaeru.pdf](http://www.happylilacnet/ten-kaeru.pdf)

紹介した課題は書店などで購入できますが、どのような課題がいいのか迷ったり、トレーニングに励むことを習慣にすることが難しければ、担当のセラピストにご相談下さい。

文責 作業療法士 松本 広子

# みんなでLet's!リハビリ!

## 第13回

今回は言語療法のリハビリを受けておられるH. T氏の作業作品をご紹介します。これまでもアンデルセン手芸や切り絵などに挑戦して下さっていましたが、現在は張り子の面を製作中です。丁寧に和紙を張り付けていく作業は根気がいります。お多福のお面が完成しました。次は立体的なキツネに挑戦します。



当苑でリハビリをされているご利用者様からの寄稿です。

## 桜と銀杏の町

国立は国分寺と立川の間に位置することから名前をつけられた。赤い屋根の旧駅舎は今年、復元される。

駅前の大学通りに喫茶店がある。店のマダムは国立音楽学校声楽部の卒業生である。ピアノの演奏など音楽関係のイベントを催してくれる。

また、50年前は桐朋学園の近くに馬を飼っているところがあった。農耕馬ではなく、競走馬であった。

国立といえば、忘れられないものもある。春は桜祭りである。出店の数もすごい。パレードもある。

冬になると、銀杏並木である。

金色の  
ちひさき鳥の  
かたちして  
銀杏ちるなり  
夕日の岡に

与謝野晶子

師走の忘れられない光景である。

S生



## 交換日記Ⅱ

初恋だろうか心臓が爆発しそうな予感。卒業式もサヨナラを言い、互いの家に帰っていく。大きな声で「元気でねえ」「分かった、じゃあね」。いろんな人が言い忘れないかと立ち止まっている。女子が四人声を合わせ、「なおちゃん、さようなら」「おお、バイバイ」。J子ちゃんは居ない。先生と進路の相談が有るとグラウンドから教室へ。昔の青森は、公立落ちたら私立に行くと言うパターン。J子ちゃん、僕の机の中の日記を見てるんだらうなと心がウキウキする。高校が違うと交換日記もできなくなる。そうだ、手紙があった、なんだか嬉しい予感。

J子ちゃんと連絡がとれない、どうしようかと三日待つ、一週間待つ、さらに一週間、まだ連絡はとれない。高校が始まり、僕もそれに伴い忙しく感じて。J子ちゃんを忘れた訳じゃない。スポーツと勉強で。J子ちゃん、僕を忘れてしまったの？

高校に入學し、J子ちゃんと逢ったのは三度こっきり。一度目は青森駅を何気なく歩いていたら、「なおちゃん、久しぶり。時間が無いの。遊びにきてよ」。いい香りがしても化粧はどうしたの？赤い口紅、似合わないのに。可愛い顔はどうしたの？遊びについでか？

二度目は青森駅前の新町通りで偶然に。「おうJ子ちゃん、元気にしてる？」「わあ、なお」。赤い口紅はピンク色に変えて、化粧は薄く、着ている服は上品で。J子ちゃんとは違う。J子さんだね。「高校はどうしたの？」「私、高校には行ってないの」。それはショックが強すぎて、何を話したか覚えていない。

三度目は学年も二つ増えて、部活も最後の戦いを終え、五所川原から青森まで車で帰るとき、J子さんと出逢った。とても綺麗な顔で僕が何も言えないのを知って、話しかける。「ねえ、懐かしいわ。私、アパートを変えたの、良い所だから遊びに来てよ。ちょっと待ってね」。手帳に住所を書いてビビビりに破り、それを僕に。「この前Y君たちが遊びに来たの、なおも来てよね、約束だから」。何とも言えない好い香り。途中の駅でJ子さんが降りる。「バイバイ、また今度ね、約束したから」「おう、またね」。汽車の中で部活の仲間達がぞろぞろやって来て、「ヒューヒュー」と。J子さんと逢ったのはこれが最終章の別れ。初恋はそつと手のひらに。約束は守られていない。

青森から出張で来た洋と、神奈川と埼玉に住居を持つ二人と同窓会をしようとして上野に集まった。洋に聞いたのだが、J子さんは三軒のスーパーマーケットのオーナーに就いて、独り身だ。交換日記はどうしたのだろうか？

N.N

## 作業療法作品紹介

素敵な作品ができました

右手に痛みがありますが、貼り絵をしています。と夢中で痛みを忘れてしまいます。



庭に咲いている水仙の花



桜～今年は早咲き

## 節分

2月3・4日に節分の豆まきを行いました。豆の代わりにボールを鬼に投げたり、食べたりして皆さん豆まきを楽しまれました。

